

相談援助実習指導 I

担当教員 後藤 秀昭、姫野 建二、平川 泰士、福崎 千鶴、橋本 眞奈美、田島 望

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 実習

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

1. 相談援助実習の意義について理解できる。
2. 個別指導並びに集団指導を受けて、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得できる。
3. 社会福祉士に求められる資質、技能、倫理、自己の学習課題等、総合的に対応できる能力を修得できる。
4. 具体的な体験や援助活動を、専門援助技術として概念化し、理論化し、体系立てていく能力を涵養できる。

【授業の展開計画】

[授業全体の内容の概要]

20人以下の規模に編成し、実習の事前・事後に実習指導教員から個別指導並びに集団指導を受ける。

[授業終了時の達成課題]

社会福祉士に必要な資質、技能、倫理等の能力を実践的に修得し、資格取得を目指す。

※相談援助実習指導 I・同II 共通

週	授 業 の 内 容
1	実習指導マニュアルに基づき、実習関連科目や今後の指導スケジュールを確認し、理解させる。
2	実習の意義や目的、方法、留意点について理解させる。
3	見学実習の注意事項および事前学習内容を理解させる。
4	高齢者福祉実践分野の指導者からの講話を元に、その実践活動の実際と課題を理解させる。
5	障害者福祉実践分野の指導者からの講話を元に、その実践活動の実際と課題を理解させる。
6	地域福祉実践分野の指導者からの講話を元に、その実践活動の実際と課題を理解させる。
7	保健医療実践分野における指導者からの講話を元に、その実践活動の実際と課題を理解させる。
8	児童福祉実践分野における指導者からの講話を元に、その実践活動の実際と課題を理解させる。
9	実習先の資料やレポート課題の学習を通して、各相談援助実践の場を理解する。
10	視聴覚教材を元に、福祉専門職として求められる価値、知識、技術を理解させる。
11	希望実習先の課題レポート作成を通して、その歴史や事業概要、サービス機能を理解させる。
12	希望実習先の課題レポート作成を通して、サービス利用の手続きや利用者を理解させる。
13	既実習者のソーシャルワーク報告会に参加し、ジェネリックソーシャルワークについて理解させる。
14	ソーシャルワーク報告会に参加し、実習先や事前学習の必要性を理解させる。
15	個別指導を通して希望する実習先を理解させるとともに、実習に向けての課題を指導する。

【履修上の注意事項】

相談援助実習は、これまでに講義や演習で学んできたことを基盤に総力で体験しながら学ぶものである。したがって、実習指導においてもソーシャルワーク論や福祉各論（児童、障害、高齢等の分野）等の再学習をしておくこと。

また、課題レポートなどにも積極的に取り組み、実習の目的や意義をはじめ、相談援助の実践能力が涵養できるように予習を行うこと。

【評価方法】

指導に対する積極的応答と関与(30%)およびレポート提出とその内容(70%)の合計で評価する。

【テキスト】

日本社会福祉士養成校協会監, 長谷川匡敏ほか編『社会福祉士相談援助実習』中央法規出版(最新版)

【参考文献】

随時、授業時に紹介する。